



ふじさと



和歌山市立宮北小学校
学校だより 令和8年6月号



子どもたちの主体的な姿があふれる朝の時間

6月を迎え、先週はじめはこの時期に珍しい台風の影響を心配したり、今週は津波注意報に驚かされたりするなか、とうとう梅雨入りとなりました。5月から気温が高く夏日もありましたが、これから蒸し暑い季節がやってきます。一人一人が熱中症対策を心がけ、暑い季節をみんなで無事に乗り切りたいものです。

毎朝、校門であいさつを交わしながら子どもたちの登校する姿を見守っています。入学当初は不安そうにしていた1年生も今はすっかり足取り軽く元気に歩いてくるようになりました。いつも大きな声であいさつしてくれる笑顔や、きょうだいの荷物を代わりに持ってあげるような何気ないやさしさに触れるなど、朝からうれしい気持ち、あたたかい気持ちになります。

ランドセルを教室においた後、始業のチャイムが鳴るまでの時間は、子どもたちにとって「小さな自由時間」です。朝早く来た子から少しずつ人数が増えていくドッジボール。異学年が混ざって力いっぱい投げたり受けたり逃げたり…なかなか見ごたえありです。朝顔に毎日水やりしながら小さな変化を見つけて喜ぶ子、野菜の苗の現状を伝え合う子、タブレットでうまく写真を撮ろうと意気込んで畑へ向かう子、水やりのホースを几帳面にまく子…、どの子にも共通するのが「自分からすすんで」「自分がやりたいことを」「いい表情で」していることです。誰かに言われてしているのではない、自分がしたいこと、気になることを夢中でしている朝の時間には子どもたちの生き生きとした顔、楽しい言葉のやり取り、きらりと光る気づきがちりばめられています。



こんな時間の中に一人一人の小さな成長の積み重なりを発見することも多いです。子どもたちの主体的な姿があふれるのびのびとした時間、一人一人がすてきに感じる朝の時間が大好きです。

学校長 西井 恵美子

6月5日（金）に行いました授業参観・懇談会に、お忙しいところ多数ご出席いただきありがとうございました。4月の様子との違いや変化、成長を感じられたというお声をいただきました。早いもので1学期もあとひと月あまり、充実した日々を重ねていきたいと思ひます。



4年生と川上村に行きました（6月4日）

4年生と一緒に奈良県の川上村へ行ってきました。宮北小学校で4年生が川上村に行くのは今年で3年目になります。「4年生になったら川上村に行ける♪」と楽しみにしてくれていた子もいたようです。川上村は、紀の川、吉野川をさかのぼる源流の村です。子どもたちは、森や水を大切にしている川上村の人たちの願いがこめられた『川上宣言』を学んでから見学に臨みました。



森と水の源流館では、学芸員の方から多くのことを教えていただきました。自然からたくさんの恵みを受けて暮らしていること、そして自然を大切にする事の重要性を学ぶ機会となりました。偶然、野生の鹿を2頭見ることもでき、子どもたちは大喜びでした。



蜻蛉（せいらい）の滝では、台風後の迫力ある水量で落ちる水の勢い、音、しぶきから、自然の力強さを感じる貴重な体験ができました。安全面から川に入る活動は中止となりましたが、その分、増水した川の様子を実際に見ることで、自然の変化や危険についても学ぶことができました。

自然体験では、雨のしずくが森の中で一滴一滴と生まれる様子に感動し、それらが集まり川になっていくということ、源流が大切に守られているからこそ、私たちが安全できれいな水を使うことができ



ていることを実感しました。シダの葉を飛ばしたり、モミジの種を見つけたり、コケに触れたり、木のおいをかいたり、最後にチャノキの枝をお土産にもらって帰ってきました。

翌日、学校でお土産のチャノキのやわらかい葉だけを炒ってお茶にし、みんなで味わっていました。自分たちで見つけた葉でいれたお茶は特別な一杯になったことでしょう。見て、聞いて、触れて、味わう本物の体験は、子どもたちの心に深く残り、これからの学びや考え方につながっていくはず。4年生が今後、この学びをどのように生かしていくのか、とても楽しみです。

